



第3回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティを醸成し、産官学の対話を促進することにつながると期待されます。

本セミナーは、2~3か月に一度の頻度で開催し、全10回を予定しております。毎回、2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を聞くことができ、講師の先生と直接お話しいただける場を提供します。

今回は、がん細胞のアミノ酸取り込みを標的としたがんPET診断と新たな抗腫瘍治療の開発、およびスーパーコンピュータ「京」を駆使した創薬と医療応用におけるシミュレーション科学とビッグデータ科学をテーマにとりあげました。

日時：2015年3月4日（水） 15:00~18:00

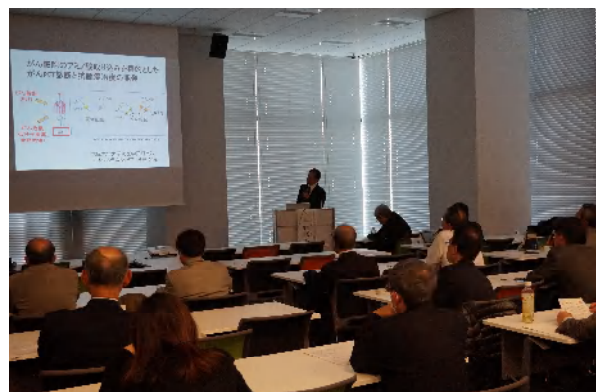
会場：グランフロント大阪 北館タワーC 8階 C01

15:00-16:00 「がん細胞のアミノ酸取り込みを標的としたがんPET診断と抗腫瘍治療の開発」

大阪大学大学院 医学系研究科 生体システム薬理学 教授 金井好克

細胞に栄養素を供給するトランスポーターは、細胞の生存にとって必須のものであるが、病態形成を推進する細胞に発現するものは、病態形成の促進因子として位置づけられ、診断の指標となるとともに、それを抑制する薬物は新たな治療薬となる可能性がある。がん細胞では、亢進した蛋白質合成や細胞内代謝を保障するために、アミノ酸トランスポーターの発現が高まっています。

本講演では、がん細胞に高い特異性をもって発現亢進するアミノ酸トランスポーターLAT1に着目して、それを標的としたPET診断技術と抗腫瘍薬開発について紹介しました。



16:00-17:00 「スーパーコンピュータで挑む創薬と医療」

京都大学大学院 医学研究科 臨床システム腫瘍学 特定教授 奥野恭史

実験科学、理論科学に次ぐサイエンスとして「シミュレーション科学」と「ビッグデータ科学」の重要性が急速に高まっている。 演者は、これまでに製薬会社 23 社、IT 会社 2 社との共同で、スーパーコンピュータ「京」を用いた創薬計算に取り組んできました。

また、最近では、京大病院がんセンターが集積するがん患者約 5,000 例の実臨床データを解析することで、臨床データに基づく予測医療の研究開発を開始しました。本講演では、創薬と医療応用におけるシミュレーション科学とビッグデータ科学の実例と可能性について紹介しました。



17:00-18:00 交流会・名刺交換会

会場：公益財団法人都市活力研究所セミナー室（北館 タワーC 7階）



監 修：坂田恒昭（大阪大学大学院基礎工学研究科 特任教授）

竹田 潔（大阪大学大学院医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター教授）

後 援：大阪医薬品協会

共 催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

主 催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

問合先： NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-6459-6795（魚谷、梅村、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村）